

平成30年度 士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 実施状況シート

1. 重点プロジェクト「農業未来都市創造事業」の実施状況

(1) やさしい農業農村づくり

【事業名: やさしい農業農村づくり事業】

小事業名	事業概要 【Plan(計画)】	H30年度 実施 【Do(推進)】	H31年度 実施 【Do(推進)】
【No.1】 地域資源を活用した学校教育推進事業	総合的な学習の時間を活用し、小学生が農業についての体験や学習を行うことで、農業への理解を深めるとともに、愛郷心の醸成を図る。	○小学校3年生から6年生の児童を対象とした「農業学習」を実施した。 * 農業学習履修時間 45時間	○小学校3年生から6年生の児童を対象とした「農業学習」を実施する。 * 農業学習履修時間 50時間

重要業績評価指標(KPI)の推移

KPI項目	区分	【Check(確認)】						評価・課題及び改善 【Action(改善)】
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	計	
農業学習履修時間	計画	35	35	40	45	50	205時間	【達成】
	実績	35	35	40	45			

【No.2】 農業未来都市構想策定事業	農業後継者や新規参入者が円滑に研修できる体制を整備し、本市農業の振興発展に期するため、本市としてのシステム構築と将来ビジョンを策定する。	○H27年度で事業完了	
【No.3】 農業農村担い手支援事業	担い手の近代的経営感覚を養うとともに、経営規模拡大に向けた支援を行う。	○新規就農者等の農地集積に向け、賃貸料及び制度資金利子を助成した。 * 賃貸料助成 19件 ○新規参入者に対して、農業生産に係る不動産の取得に伴う固定資産税相当額を助成した。 * 助成対象者 2名 ○大都市圏で開催された就農相談会等に出展した。 * 新農業人フェア(札幌会場) ○大学、専門学校等を訪問し、就農希望者の誘致活動を行った。 * 江別市、深川市 ○士別市受入農家協議会に、受入地区研修支援助成。 ※受入地区数 1地区	○新規就農者等の農地集積に向け、賃貸料及び制度資金利子を助成予定。 * 賃貸料助成 20件 ○新規参入者に対して、農業生産に係る不動産の取得に伴う固定資産税相当額を助成予定。 * 対象者 3名 ○大都市圏で開催される就農相談会等に出展予定。 * 新農業人フェア ○大学、専門学校等を訪問し、就農希望者の誘致活動を行う予定。 ○士別市受入農家協議会に、受入地区研修支援を助成予定。
【No.4】 しべつ農村塾運営事業	地域の農業者や関係者とともに農業のあり方を研修する。	○「農作物栽培試験・栽培技術向上推進事業」へ統合した。 ○学識経験者を新たに1名委嘱し、総合的な助言を受けた。 ○地域の農業者や関係者とともに農作物の収量向上に向けた取り組みを実施した。 ○つくも4号の普及推進	○士別市農業応援アドバイザーより、総合的な助言を受ける。 ○地域の農業者や関係者とともに農産物の収量向上に向けた取り組みを実施する。 ○つくも4号の普及推進
【No.5】 グリーンパートナー推進事業	農業関係団体が連携し、「農業後継者配偶者対策」を実施する。	○市、農業委員会及び農協が連携し、都市の独身女性との交流の場として当該事業を実施した。 * 年代を分けて、2回開催 ・男性30歳以下の部 8/18~19 ・男性31歳以上の部 9/8~9	○市、農業委員会及び農協が連携し、独身女性との交流の場として当該事業を実施予定。

新規就農者数	計画	11	7	8	9	10	45人	【評価】 新規就農時の初期投資額を助成することで、規模拡大を助長した。 【課題】 ○新規就農者等が少ないことが課題である。 ○経営者をめざす者が減っている。 【改善】 ○就農希望者の募集の強化を図る。
	実績	12	4	3	8			

【No.6】 移住促進事業	大都市圏からの移住者及び体験移住者の増加を図る。特に、農業の新規就農者の移住者の増加をめざす。	○短期移住体験者を受け入れた。 * 延 344人	○移住住宅のあり方を検討し、新たな移住・定住パッケージ(受け入れ態勢)を構築する。
------------------	---	-----------------------------	---

移住体験者数	計画	延 500	延 600	延 700	延 800	延 1,000	延 3,600人	【課題】 ○移住定住につながる新たな施策の構築が必要である。 【改善】 ○しべつ版移住・定住パッケージ(移住者向け支援策、空き家・空き地バンク等の利活用)を構築する。
	実績	延 641	延 699	延 490	延 344			

【事業名: やさしい農業農村づくり事業】

小事業名	事業概要 【Plan(計画)】	H30年度 実施 【Do(推進)】	H31年度 実施 【Do(推進)】
【No.7】 サフォーク種羊振興事業	羊飼養者の定着化と経営の安定を図るため、飼養管理及び種雄導入の支援を行う。	○羊の飼養管理費や羊肉の流通促進等に対して助成をした。 * 飼養者数 5戸 ○地域おこし協力隊による飼養管理技術の研修や各種講習会への参加、畑作物や野菜の試験栽培などにより、羊飼養者の育成に努めた。 * 隊員数 4名 ○地域おこし協力隊員1名が、年度末にて任期を満了し、H31年4月から、新規めん羊生産法人に就労した。(4月末に任期を満了した協力隊員も、5月から市内肉用牛生産法人に就労)	○羊の飼養管理費や羊肉の流通促進等に対する助成を予定。 ○種雄導入に対する助成を予定。 ○スクレイパー抵抗性の向上対策を予定。 ○士別産サフォークのGI制度の取得及びPRをめざす取り組みを予定。 ○新規めん羊生産法人に対して、めん羊導入及び羊舎建設、機械導入に対する助成を予定。 ○地域おこし協力隊による各種研修を予定。
【No.8】 農業体験受入事業	修学旅行や企業等の研修のための農業体験者を受入れる。	○学校や企業等の研修のための農業体験者を受入れた。 * 延298人 トヨタ工業学園 262人 愛媛農業大学校 36人	○学校や企業等の研修のための農業体験者を受入れる。
【No.9】 6次産業ネットワーク推進事業	本市の優れた農畜産物等を活用し、生産加工・流通を活性化するための体制づくりを行う。	○士別市産の農畜産物を活用し、6次産業化を行う農業者、農業団体を支援した。 * 事案件数 2件 ○6次産業化の推進に向けて、関係事業者による意見交換会を開催した。	○士別市産の農畜産物を活用し、6次産業化を行う農業者、農業団体を支援予定。 * 事案件数 2件(予定) ○6次産業化の推進に向けて、関係事業者による意見交換会の開催を予定。

重要業績評価指標(KPI)の推移

KPI項目	区分	【Check(確認)】						評価・課題及び改善 【Action(改善)】
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	計	
羊新規飼養者戸数	計画	1	1	2	1	1	6戸	【課題】 ○効果的な就労支援体制の構築が課題である。 【改善】 ○「地域おこし協力隊」の制度を活用した担い手確保をめざす。 ○収益性を高める畜産・畑作等との複合経営プランの構築やGI制度の取得によるさらなるブランド化をめざす取り組み、飼養候補地の調査等により、将来を描ける就農プランの提案を行い、飼養者等の増加をめざす。
	実績	1	0	0	0			
羊飼養頭数(繁殖雌)	計画	550	600	700	750	800	800頭	
	実績	551	528	555	614			
農業体験者数	計画	延200	延300	延300	延400	延500	延1,700人	【評価】 トヨタ工業学園と愛媛農業大学校を対象に農業体験を受入れ、士別市の農業をPRできた。 【課題】 新たな学校や企業等の受入。 【改善】 トヨタ工業学園と愛媛農業大学校を対象に農業体験を引き続き行い、新規受入先の確保を図る。
	実績	延356	延378	延309	延298			
6次産業化支援数	計画	1	1	1	2	2	7件	【評価】 取り組み支援を行うことで、農業者等の負担軽減が図られた。 【達成】 商品パッケージの作成支援及び商品開発機器購入支援ができた。
	実績	1	2	2	2			
新規販路開拓件数	計画	1	1	1	2	2	7件	【評価】 市外物産展に参加し、新規販路開拓の取り組みにより、農畜産物加工(糺)商品をPRすることができた。 【課題】 新規販路の確保。 【改善】 市外物産展に参加し特産物等を広くPRする。
	実績	1	1	1	0			

(2)おいしい農業農村づくり

【事業名: おいしい農業農村づくり事業】

小事業名	事業概要 【Plan(計画)】	H30年度 実施 【Do(推進)】	H31年度 実施 【Do(推進)】
【No.10】 ふるさと給食事業	地元の優れた農産物等を活用し、小中学校の給食において食することで農業への理解を深める。	○士別市産の農畜産物を活用した給食を提供した。 * 実施回数 8回	○士別市産の農畜産物を活用した給食を提供する。 * 実施回数 8回(予定) * 対象を従来の小中学校から就学前児童施設に拡大 (私立幼稚園3園・認可外保育園2園・へき地保育園3園 計8施設)
【No.11】 6次産業ネットワーク推進事業 *再掲 No.9	6次産業取組者と農畜産物等の直売者のつながりを強めるとともに、商品PRの強化等を図る。	【No.9】参照	【No.9】参照

重要業績評価指標(KPI)の推移

KPI項目	区分	【Check(確認)】						評価・課題及び改善 【Action(改善)】
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	計	
ふるさと給食実施回数	計画	7	7	8	8	8	38回	【評価】 地元生産者やJAの方々や連携し、地元産の多くの食材を活用した豊富な献立を提供することで、子ども達が地域の「食材の魅力」を学び、生産等に係わる方々と交流することで「食への大切さ」を学びながら、「地域への愛郷心」を醸成することができた。 【課題】 献立のメニューの固定化を防ぐためにも、これまで取り入れてこなかった食材を使用するなど、引き続き子ども達の興味・関心が高まるメニューの開発に努めていくことが必要である。
	実績	7	7	8	8		30回	
【No.9】参照								

(3)がんばる農業農村づくり

【事業名:がんばる農業農村づくり事業】

小事業名	事業概要 【Plan(計画)】	H30年度 実施 【Do(推進)】	H31年度 実施 【Do(推進)】
【No.12】 ICT農業推進事業	作業の効率化、安定化を図り、経営規模の拡大をめざし、ICT化を推進するための研修等を実施する。	○ICT農業に関する研修会を実施した。 *参加者 延 221名 ○ICT営農支援システム実証実験を実施した。 (地方創生推進交付金)	○ICT農業に関する研修会を実施する。 *参加者(予定) 延 200名
【No.13】 安全・安心農業ふれあい事業	地場農産物の消費拡大を図り、地産地消を推進するためイベントを開催する。	○「産業フェア」等の開催を支援した。 産業フェア(8/26(日)11,000人) 復活！朝日町商店街(9/16(日)3,500人)	○[士別ビートまつり]、「産業フェア」などの開催を支援予定。 士別ビートまつり(6月30日開催予定) 産業フェア(8月下旬開催予定) 復活！朝日町商店街(9月中旬開催予定)
【No.14】 農業研修施設整備事業	新規就農に向けた研修及び農業体験が可能な施設の整備を行う。	○JA等の関係機関と連携し、今後の研修施設のあり方等について検討を進めた。	○JA等の関係機関と連携し、今後の研修施設のあり方等について検討を進める。

重要業績評価指標(KPI)の推移

KPI項目	区分	【Check(確認)】						評価・課題及び改善 【Action(改善)】
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	計	
ICT農業研修者数	計画	延 100	延 100	延 150	延 200	延 200	延 750人	【評価】 ICT農業の理解を深め、ICT技術導入の促進が図られた。 【達成】 ICT活用農業に関する視察研修の実施、国や道などが主催する様々なICTに関する研修会に参加した。
	実績	延 136	延 125	延 176	延 221			
GPS移動局導入件数	計画	4	—	—	—	—	—	
	実績	4	10	11	96			
イベント参加者数	計画	延 17,700	延 16,000	延 19,000	延 17,000	延 21,000	延 90,700人	【評価】 地場産品の消費拡大、地産地消の推進が図られた。 【課題】 天候等の要因により集客が少なかった。 【改善】 イベント内容等を工夫し、達成をめざす。
	実績	延 18,200	延 19,100	延 21,500	延 14,500			
新規就農者数【再掲】	計画	11	7	8	9	10	45人	【事業No.2~5のKPIに記載】
	実績	12	4	3	8			
農業体験者数【再掲】	計画	200	300	300	400	500	1,700人	【事業No.8のKPIに記載】
	実績	356	378	309	298			

2. 重点プロジェクト「合宿の聖地創造事業」の実施状況

(1) やさしい合宿地づくり

【事業名: 合宿の里士別ステップアッププラン事業】

小事業名	事業概要 【Plan(計画)】	H30年度 実施 【Do(推進)】	H31年度 実施 【Do(推進)】
【No.1】 合宿招致活動事業(海外)	一層の合宿者の増加を図るため、また2020年東京オリンピック・パラリンピックを見据え、海外からの合宿の招致活動を展開する。	○韓国女子マラソンナショナルチーム合宿受入(5/30~7/8) ○香港陸連合宿受入(5/22~7/2・9/7~9/19) ○中国ジャンプナショナルチーム(7/10~21) ○土別市教育委員、中華民国舉重協會(台湾ウエイトリフティング協会)合宿招致要請(11/25~28)	○台湾ナショナルチーム合宿の受入れを実現するための招致活動を行う。 (31/4/29に内閣官房オリパラ事務局と訪話し、土別合宿実現に向けた打合せ実施)
【No.2】 外国語研修事業	海外からの合宿者のおもてなしに資するため外国語研修を実施する。	公民館と共催で「台湾語教室」を実施(5回) ※平成31年1月30日から2月27日	○引き続き外国の言語や文化を学ぶ機会を提供する。
【No.3】 合宿招致イベント開催事業	合宿の里士別を内外に発信し、合宿者増加を図るため、PRイベントを開催する。	○国内各種大会へ出向き招致活動を展開し、合宿招致に向けPRを実施した。 ○高雄国際マラソン会場にて、土別市で土別ハーフマラソンを含めたPRブースを設置した。 ○土別ウエイトリフティング少年団台湾派遣(3/26~29)	○合宿の里士別を内外に発信するため、効果的なPRを実施する。
【No.4】 外国語対応招致パンフ作成事業	合宿者の増加を図るため、国内外に向けてのPRパンフレットを作成する。	○合宿招致PRパンフレット(英語併記)を1000部増刷した。	○H29年度で事業完了 ただし、掲載内容の変更や不足が生じたときは遅滞なく対応する。
【No.5】 外国語併記案内看板作製事業	本市で合宿する海外選手にもやさしい案内看板を設置する。	○H28年度で事業完了	○H28年度で事業完了
【No.6】 合宿の聖地構想策定事業	より充実した環境で合宿できるよう、「合宿の聖地」をめざす将来ビジョンを策定する。	○2014年に策定した「合宿の里士別ステップアッププラン」を2017年度に見直し。	○見直し後の「合宿の里士別ステップアッププラン」に基づきながら事業を展開。

【事業名: スポーツ合宿推進事業】

【No.7】 合宿招致活動事業(国内)	一層の合宿者の増加を図るため国内の大学、実業団、中央競技団体へ招致活動を展開する。	○全日本スピードスケートナショナルチーム合宿受入(8/19~8/29) ○各チームの拠点への訪問による招致活動を行った。	○合宿招致効果の高いスポーツ大会やチームの拠点訪問での招致活動を展開する。 ○海外チーム及びパラリンピック競技団体に対してさらなる招致活動を展開する。
【No.8】 合宿受入れ事業	合宿選手受入れにあたっての送迎をはじめ、市民との交流を促進する。	○これまでの取り組みを継続し、空港等への送迎や宿泊先の調整などを行った。	○空港間の送迎体制の徹底や宿泊先の調整などきめ細かな対応を実施する。
【No.9】 合宿の里推進協議会補助金	官民一体となった合宿推進を行う体制を整備する。	○協議会で掲げる事業を推進し、市民協働の合宿の聖地づくりを進めた。	○協議会加盟団体の主体的な取り組みを促進し、地元企業や飲食店等との連携を進める。 ○市民協働の合宿の聖地づくりをめざす。
【No.10】 ランニング教室開催事業	合宿中の選手によるランニング教室やオリンピックデーランのスポーツ教室などを通じ、市民の競技力の向上を図る。	○スポーツ能力向上事業を体育事業として実施し、トップアスリートによる指導を受けた。	○トップアスリートによる陸上教室をはじめ、各種スポーツ教室の開催により、スポーツに親しむジュニア世代の育成・拡大に向けた取り組みを推進する。

重要業績評価指標(KPI)の推移

KPI項目	区分	【Check(確認)】						評価・課題及び改善 【Action(改善)】
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	計	
合宿者数 ※()海外合宿者数	計画	延 21,000	延 22,000	延 23,000	延 24,000	延 25,000	延 115,000人	【評価】 この間の招致活動や人のつながりから、海外合宿チームの受入を増やすことができた。 【達成】 ・《上期》合宿実績⇒延17,563人 ・《下期》合宿実績⇒延6,660人
	実績	延 20,961 (8)	延 21,886 (36)	延 23,090 (858)	延 24,223 (1,043)			
新規招致チーム数 ※()海外チーム数	計画	2	2	3	4	5	延16 チーム	【評価】 ディスタンス参加チームの増加により新規チーム数を増やすことができた。 【達成】 (陸上)21団体 (スキージャンプ)2団体 (スピードスケート)1団体 (ウエイトリフティング)1団体
	実績	4 (1)	9 (1)	20 (7)	25 (7)			
海外チーム招致数	計画	1	1	2	2	2	延8 チーム	【評価】 この間の招致活動や人のつながりから、海外合宿チームの受入を増やすことができた。 【達成】 (陸上)5団体 (スキージャンプ)1団体 (サッカー)1団体 (ウエイトリフティング)1団体
	実績	1	1	9	8			
ナショナルチーム招致数 ※()海外チーム数	計画	3	3	3	3	3	延15 チーム	【評価】 この間の招致活動や人のつながりから、海外合宿チームの受入を増やすことができた。 【達成】 (陸上)1団体 (ウエイトリフティング)1団体 (スピードスケート)1団体 (スキージャンプ)3団体
	実績	4 (0)	3 (0)	2 (1)	6 (2)			

合宿者数(再掲) ※()海外合宿者数	計画	延 21,000	延 22,000	延 23,000	延 24,000	延 25,000	延 115,000人	【事業No.1~6のKPIに記載】
	実績	延 20,961 (8)	延 21,886 (36)	延 23,090 (858)	延 24,223 (1,043)			
新規招致チーム数(再掲) ※()海外チーム数	計画	2	2	3	4	5	延16 チーム	【事業No.1~6のKPIに記載】
	実績	4 (1)	9 (1)	20 (7)	25 (7)			
スポーツ教室参加者数	計画	250	300	350	400	500	延 1,800人	【評価】 「能力向上事業(新規)」の取り組みにより、子どもたちが上手に楽しく走ることを感じることができた。 【達成】 ・スポーツ教室:スキー/フリースタイル ・スポーツ教室:トランポリン ・陸上教室 ・ファイターズサマーキャンプ ・ファイターズフォールキャンプ ・スポーツ能力向上事業
	実績	181	344	502	481			

(2)おいしい合宿地づくり

【事業名:合宿の里士別ステップアッププラン事業】

小事業名	事業概要 【Plan(計画)】	H30年度 実施 【Do(推進)】	H31年度 実施 【Do(推進)】
【No.11】 合宿選手対応メニュー開発事業	合宿選手向けに地元農産物等を活用した士別ならではのメニューを開発する。	○アスリート食事メニュー開発や「合宿メニュー講習会」を開催し、各宿泊施設での活用の促進を図った。また、ふるさと給食とアスリート食事メニューと合わせた給食を提供し、合宿のまちの魅力を発信した。	○地元食材を活用した合宿メニューの開発を継続し、合宿チームへの提供のみならず、市民への還元をめざす。

重要業績評価指標(KPI)の推移

【Check(確認)】								評価・課題及び改善 【Action(改善)】
KPI項目	区分	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	計	
新規メニュー開発品目	計画	2	2	3	3	5	15品目	【評価】 開発メニューを参考にした合宿者への提供や学校給食での提供を行い合宿の里の魅力を発信した。 【未達成】 今年4月に士別旅館業組合と共催で実施した「合宿メニュー開発試食会」において2品目が開発されたが、今年度のKPI達成には至っていない。ただし、5か年の目標値である15品目は既に達成しており、今後も合宿受入施設と連携を密にし、合宿選手や市民への提供に努める。
	実績	8	4	10	2			

(3)がんばる合宿地づくり

【事業名:合宿の里士別ステップアッププラン事業】

小事業名	事業概要 【Plan(計画)】	H30年度 実施 【Do(推進)】	H31年度 実施 【Do(推進)】
【No.12】 低酸素室整備事業(朝日地区)		○H27年度で事業完了	○H27年度で事業完了
【No.13】 林道クロカンコース整備事業		○H27年度で事業完了	○H27年度で事業完了
【No.14】 陸上競技運営システム整備事業	競技力の向上をめざし、各種機器や器具、設備等を整備することで、合宿地としての魅力向上を図る。	○H27年度で事業完了	○H27年度で事業完了
【No.15】 運動施設整備機器更新事業		○3000M障害器具、卓球台を更新した。	○陸上競技場写真判定機整備
【No.16】 ウェイトリフティング器具整備更新事業		○H28年度で事業完了	○H28年度で事業完了(追加で東京オリンピックウェイトリフティング競技に使用する公式バーベル整備)

重要業績評価指標(KPI)の推移

【Check(確認)】								評価・課題及び改善 【Action(改善)】
KPI項目	区分	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	計	
合宿者数(再掲) ※()海外合宿者数	計画	延 21,000	延 22,000	延 23,000	延 24,000	延 25,000	延 115,000人	【事業No.1~6のKPIに記載】
	実績	延 20,961 (8)	延 21,886 (36)	延 23,090 (858)	延 24,223 (1,043)			
新規招致チーム数(再掲) ※()海外チーム数	計画	2	2	3	4	5	延16チーム	【事業No.1~6のKPIに記載】
	実績	4 (1)	9 (1)	20 (7)	25 (7)			

【事業名:合宿の里士別ステップアッププラン事業】

小事業名	事業概要 【Plan(計画)】	H30年度 実施 【Do(推進)】	H31年度 実施 【Do(推進)】
【No.17】 スポーツイベント開催事業	合宿の聖地としてのイベントの進化を図り、参加者にとって意義あるものとする。	○各種イベントの開催 デスタンスチャレンジ士別大会(196人) ハーフマラソン大会(1,861人) オリンピックデーラン士別大会(2,208人) 全日本サマージャンプ朝日大会(71人) 全日本サマーコンバインド朝日大会(111人) 全日本ジュニア&レディースサマージャンプ朝日大会(98人) 2018合宿の里士別ジュニアサマージャンプ交流大会(54人) 朝日ルディックスキー大会(395人)	○各種イベントの開催 デスタンスチャレンジ士別大会 ハーフマラソン大会 オリンピックデーラン士別大会 全日本サマージャンプ朝日大会 全日本サマーコンバインド朝日大会 全日本ジュニア&レディースサマージャンプ朝日大会 2019合宿の里士別サマージャンプ交流大会 朝日ルディックスキー大会

重要業績評価指標(KPI)の推移

【Check(確認)】								評価・課題及び改善 【Action(改善)】
KPI項目	区分	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	計	
イベント参加者数	計画	延 4,000	延 4,500	延 5,000	延 5,500	延 6,000	延 25,000人	【評価】 他大会にない大会づくりに努め本市の魅力を発信した。 【未達成】 「デスタンスチャレンジ士別大会」「オリンピックデーラン」「ハーフマラソン」などの参加者数は増加したものの、今年度のKPI達成には至っていない。 ただし、過去3か年において、最も多い参加者数になると見込んでいる。今後は大会等の告知を早めるなど改善を図りながら、魅力ある大会やイベントづくりを進める。
	実績	延 4,369	延 4,900	延 4,393	延 4,994			

小事業名	事業概要 【Plan(計画)】	H30年度 実施 【Do(推進)】	H31年度 実施 【Do(推進)】
【No.18】 トレーニングセンター整備事業	あらゆるスポーツの基礎となるウェイトトレーニングやランニングが可能な施設を整備する。	○H28年度で事業完了	○H28年度で事業完了

【Check(確認)】								評価・課題及び改善 【Action(改善)】
KPI項目	区分	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	計	
合宿者数(再掲) ※()海外合宿者数	計画	延 21,000	延 22,000	延 23,000	延 24,000	延 25,000	延 115,000人	【事業No.1~6のKPIに記載】
	実績	延 20,961 (8)	延 21,886 (36)	延 23,090 (858)	延 24,223 (1,043)			
新規招致チーム数(再掲) ※()海外チーム数	計画	2	2	3	4	5	延16チーム	【事業No.1~6のKPIに記載】
	実績	4 (1)	9 (1)	20 (7)	25 (7)			

【事業名:合宿の里士別ステップアッププラン事業】

小事業名	事業概要 【Plan(計画)】	H30年度 実施 【Do(推進)】	H31年度 実施 【Do(推進)】
【No.19】 無線LAN構築事業	合宿者のための宿泊環境を整備し利便性を向上する。	○H27年度で事業完了	○H27年度で事業完了
【No.20】 洋室照明整備事業		○H27年度で事業完了	○H27年度で事業完了
【No.21】 井水装置整備事業		○H27年度で事業完了	○H27年度で事業完了
【No.22】 循環ポンプ整備事業		○H27年度で事業完了	○H27年度で事業完了
【No.23】 大浴場改修事業等		○H28年度で事業完了	○H28年度で事業完了

重要業績評価指標(KPI)の推移

KPI項目	区分	【Check(確認)】						計	評価・課題及び改善 【Action(改善)】
		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度			
合宿者数(再掲) ※()海外合宿者数	計画	延 21,000	延 22,000	延 23,000	延 24,000	延 25,000	延 115,000人	【事業No.1~6のKPIに記載】	
	実績	延 20,961 (8)	延 21,886 (36)	延 23,090 (858)	延 24,223 (1,043)				
新規招致チーム数(再掲) ※()海外チーム数	計画	2	2	3	4	5	延16チーム	【事業No.1~6のKPIに記載】	
	実績	4 (1)	9 (1)	20 (7)	25 (7)				

【No.24】 宿泊室バリアフリー化事業	障がい者スポーツの振興と2020東京オリンピック・パラリンピックを見据え、宿泊室のバリアフリー化を図る。	○H27年度で事業完了	○H27年度で事業完了
-------------------------	--	-------------	-------------

障がい者スポーツの合宿者数	区分	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	計	【評価】 ガチバラの開催により、バラスポーツ観戦の機会や応援文化の定着などを進められた。 【達成】 「オリパラ交流研修事業(ガチバラ!)」の実施。
		延 12	延 12	延 20	延 20	延 30		
	計画	延 12	延 12	延 20	延 20	延 30	延 94人	
	実績	0	延 39	0	延 26			

【事業名:朝日地域交流センター整備事業】

【No.25】 施設修繕事業	合宿者のための宿泊環境を整備し利便性を向上する。	○H28年度で事業完了	○H28年度で事業完了
【No.26】 エアコン・カーテン整備事業		○H27年度で事業完了	○H27年度で事業完了

重要業績評価指標(KPI)の推移

KPI項目	区分	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	計	【事業No.1~6のKPIに記載】
		延 21,000	延 22,000	延 23,000	延 24,000	延 25,000		
合宿者数(再掲) ※()海外合宿者数	計画	延 21,000	延 22,000	延 23,000	延 24,000	延 25,000	延 115,000人	【事業No.1~6のKPIに記載】
	実績	延 20,961 (8)	延 21,886 (36)	延 23,090 (858)	延 24,223 (1,043)			

士別市まち・ひと・しごと総合戦略 数値目標

		基準値(年度)		実績(年度)				数値目標	
数値目標	合計特殊出生率	H24	1.36	H29	-	H30	- (令和2年3月公表予定)	H31	1.5
	有効求人倍率(倍)	H26	1.18	H29	1.59	H30	1.63	H31	1.2
	高校卒業者地元就職率(%)	H26	35.3	H29	55.3	H30	46.1	H31	50.0
	健康な高齢者率(%)	H26	82.5	H29	81.9	H30	81.8	H31	85.0
	交流人口(人)	H26	398,824	H29	384,519	H30	334,312	H31	456,700

ICT 農業推進事業（地方創生交付金事業）について

事業の経過

平成 28 年にトヨタ自動車の農業 IT 管理ツール「豊作計画」の実証試験を実施する団体として、士別市、JA 北ひびき、トヨタ自動車、北海道銀行、道銀総研を構成員、オブザーバーを北海道とする「ICT 営農支援システム研究プロジェクト団体」を設立。

トヨタ自動車の開発したツール「豊作計画」と「現場改善」の実証試験により、本市での効果を検証、営農支援ツールとして、農業経営の向上や法人化等の経営の組織化を推進し、本市農業の経営体質の強化をめざしてきた。

事業の概要

「豊作計画」は、ICT ツール（スマートフォンなど）を使用することで、農作業の進捗管理や作業日報の自動作成も可能となり省力化が図られる。また、現場改善を取り入れることにより、人材育成につなげることができる。

主な事業内容

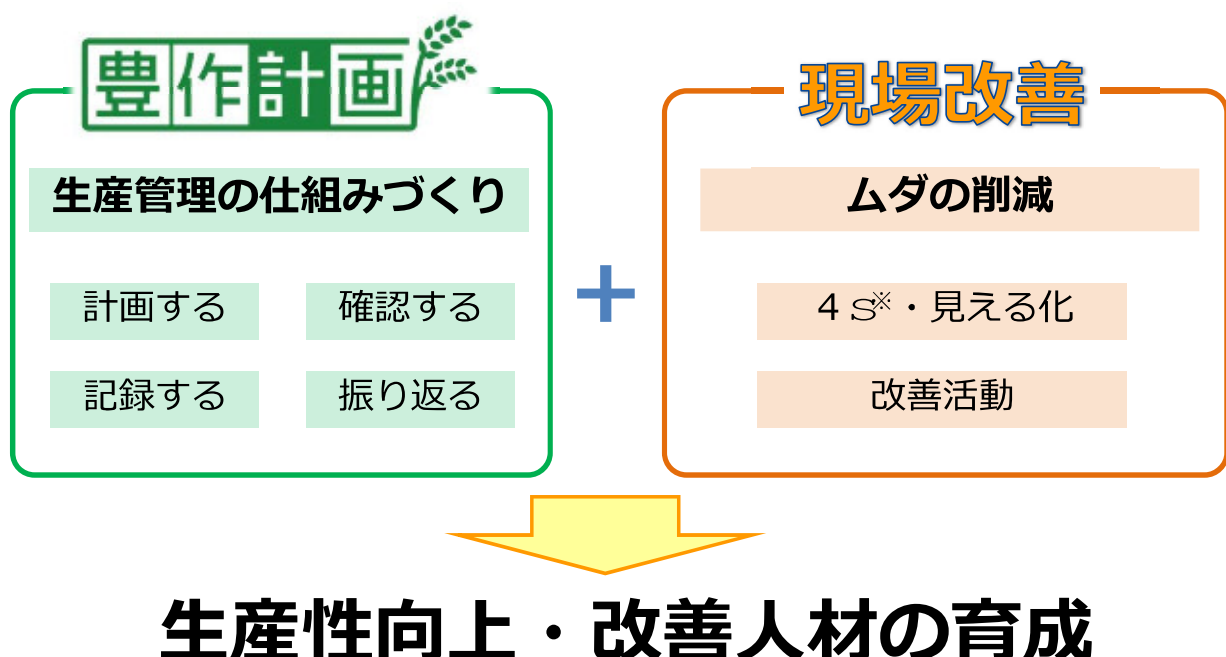
農業未来都市創造の取り組みのひとつとして、平成 28 年度から 30 年度の 3 年間、市内法人で実証試験を実施

- ① 「豊作計画」「現場改善」のサポート
 - ・ ICT ツールを活用し、計画（P）、記録（D）、確認（C）、振り返り（A）を実践する
- ② 現場改善の講習
 - ・ トヨタ生産方式のノウハウの習得
- ③ 現場改善のサポート
 - ・ 従業員自らが問題に気づき、現場の力で改善していく組織づくりのサポート

1 豊作計画の特長

TOYOTA

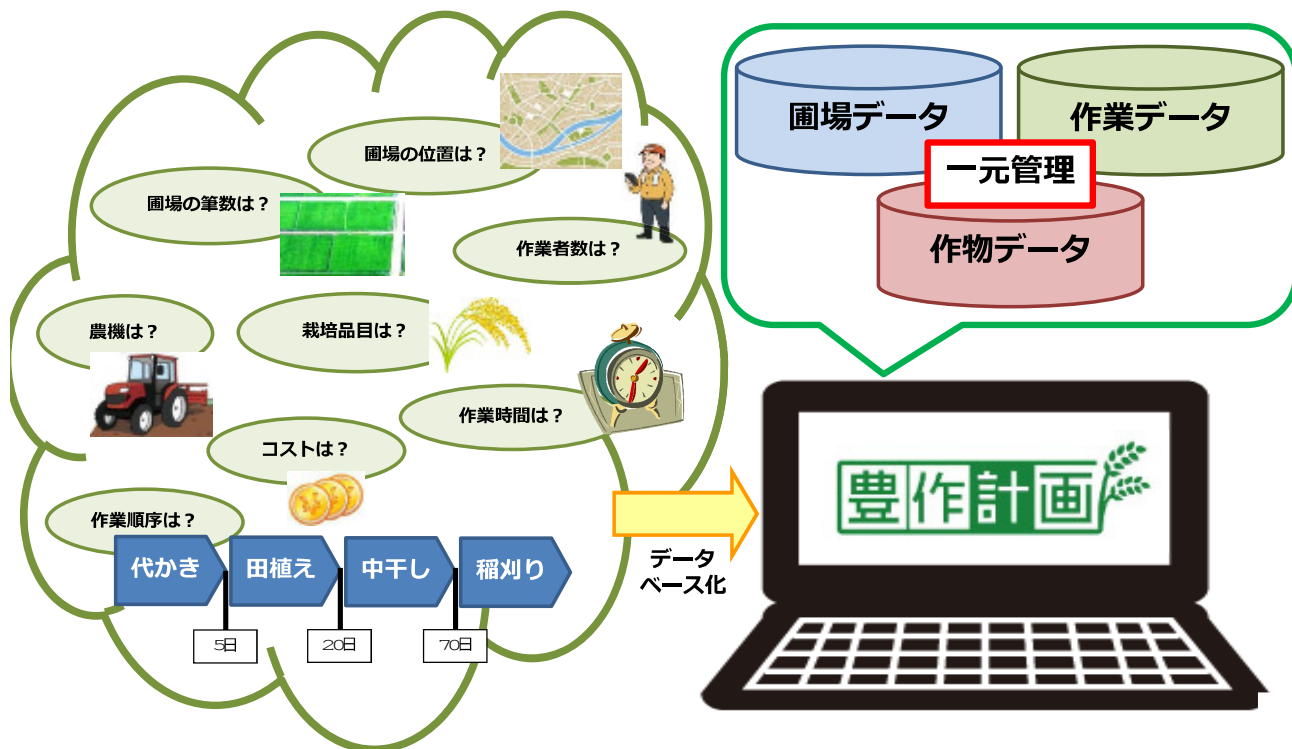
豊作計画とは



※4Sとは、整理、整頓、清掃、清潔のこと

データ集約整理

基本情報を整理し、データベース化



現場改善、小集団活動

① 現場改善

トヨタ生産方式に基づく
改善活動の実践

〈トヨタスタッフによる現場改善の様子〉



② 小集団活動

小集団活動とは

従業員数名で現場の問題点について話し合い、
自主的に改善していくこと

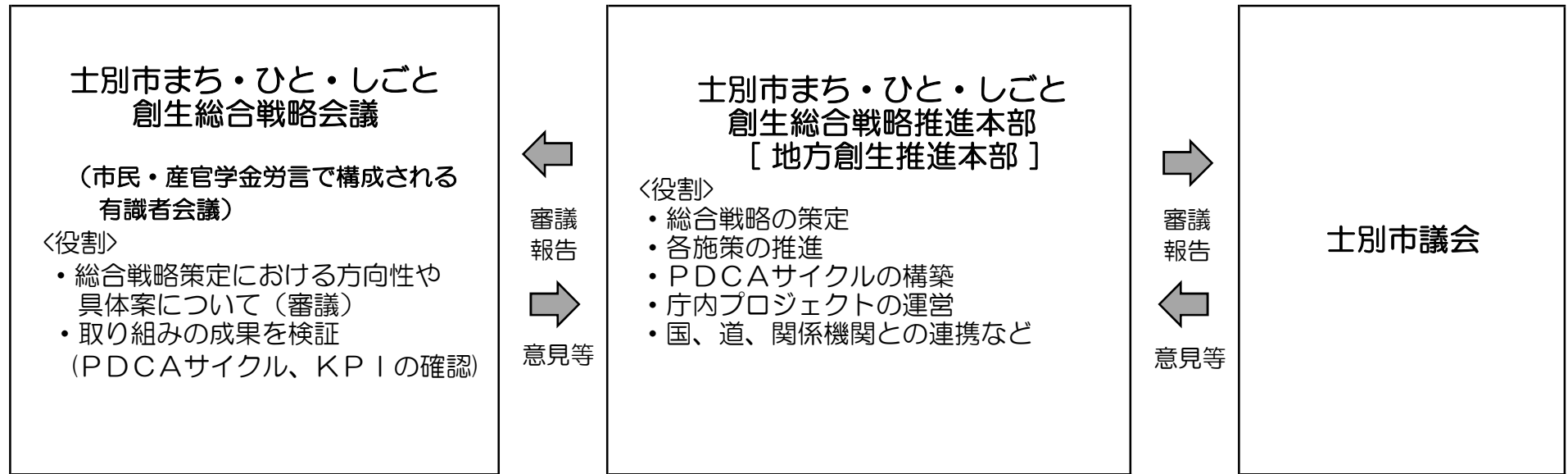
→現場自らの力で改善のしくみを
定着させる

〈従業員による小集団活動の様子〉

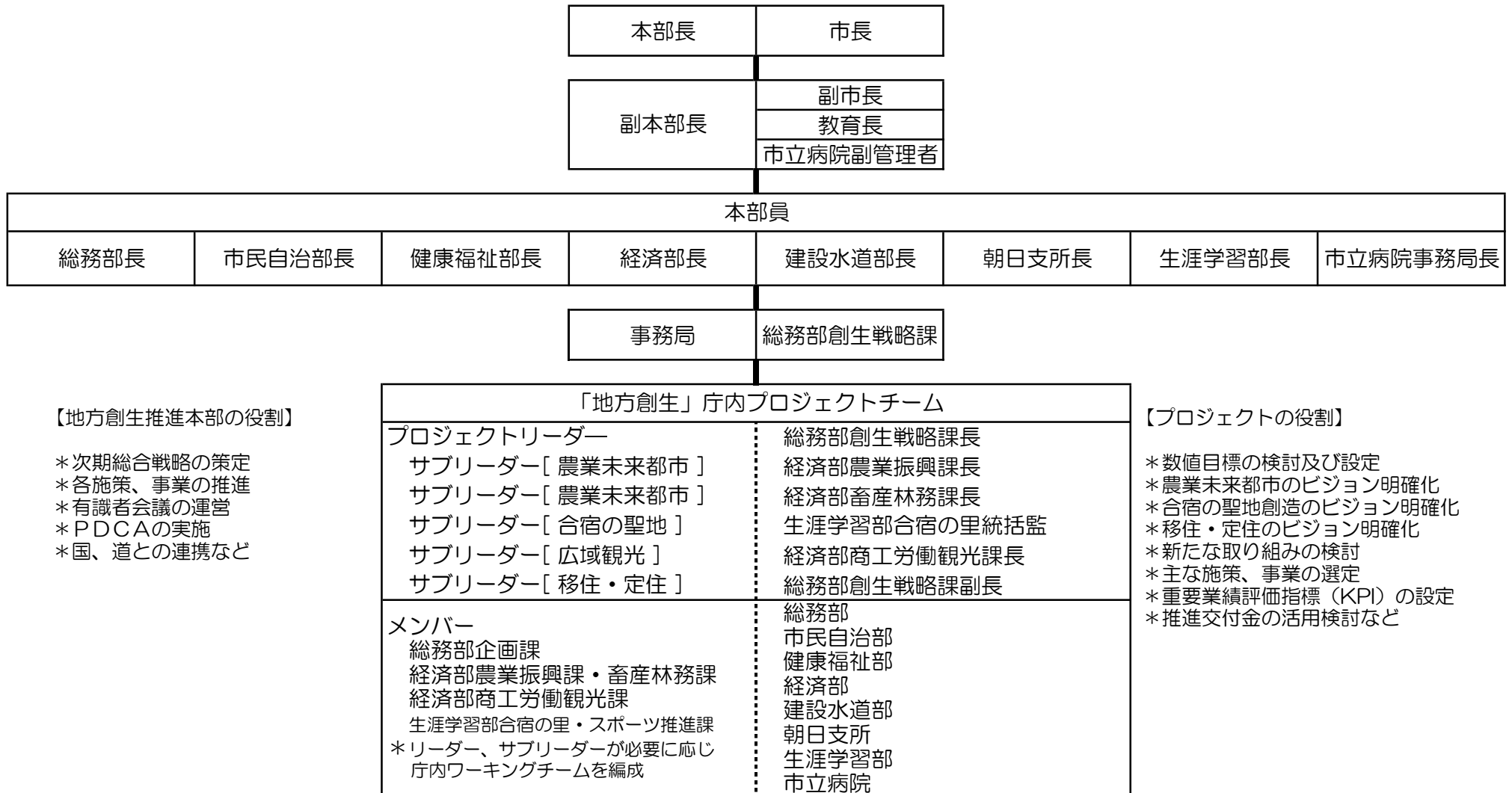


人材育成が図られる職場と風土づくり

士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 策定体制図



士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 策定体制図（地方創生推進本部）



士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定経過

1. 「士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（現総合戦略）の策定

・ H27年7月「士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議（有識者会議）」を設置
設置…H27年7月

有識者会議…全4回開催（H27年7月～10月）

構成…市民、「産・官・学・金・労・言」の代表者

〔自治会連合会、社会福祉協議会、青年会議所、体育協会、農業協同組合、
商工会議所・商工会、市議会、農業委員会、上川総合振興局、近郊大学、
校長会、翔雲高校、金融機関（連携協定）、労働団体、報道機関 など（28名）〕

・ H27年10月に「士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定

2. 人口ビジョン

めざすべき将来の方向を踏まえ、国の長期ビジョン及び本市の人口動向や分析などを考慮し、本市が将来めざすべき将来人口を展望

・ 目標人口

2019年（現戦略最終年度）：19,500人

2040年：15,000人

2060年：11,000人

3. 総合戦略の概要

<2つの重点プロジェクト（総合戦略から抜粋）>

農業未来都市創造

担い手の確保と安定的な経営体の育成、新規就農者の育成確保、女性が活躍する農業の展開、農業後継者、既存農業者の振興、雇用の拡大、ICT農業の調査研究など



「農業都市」としての誇りにつながる取り組みを進める

合宿の聖地創造

合宿に関連する地域資源の再認識、農業や観光、商工業との連携による合宿者の拡大合宿受入態勢の充実、合宿招致活動、スポーツイベントの開催など



産業の振興や雇用の拡大へつなげ「行ってみたい」「住んでみたい」まちづくりをめざす



2つの柱を掲げ「7つのK」（教育・子育て・健康・雇用・交流・観光・環境）へ波及

参考

「農業」「合宿」を引き続き本市の地方創生重点プロジェクトとして掲げる ことについて

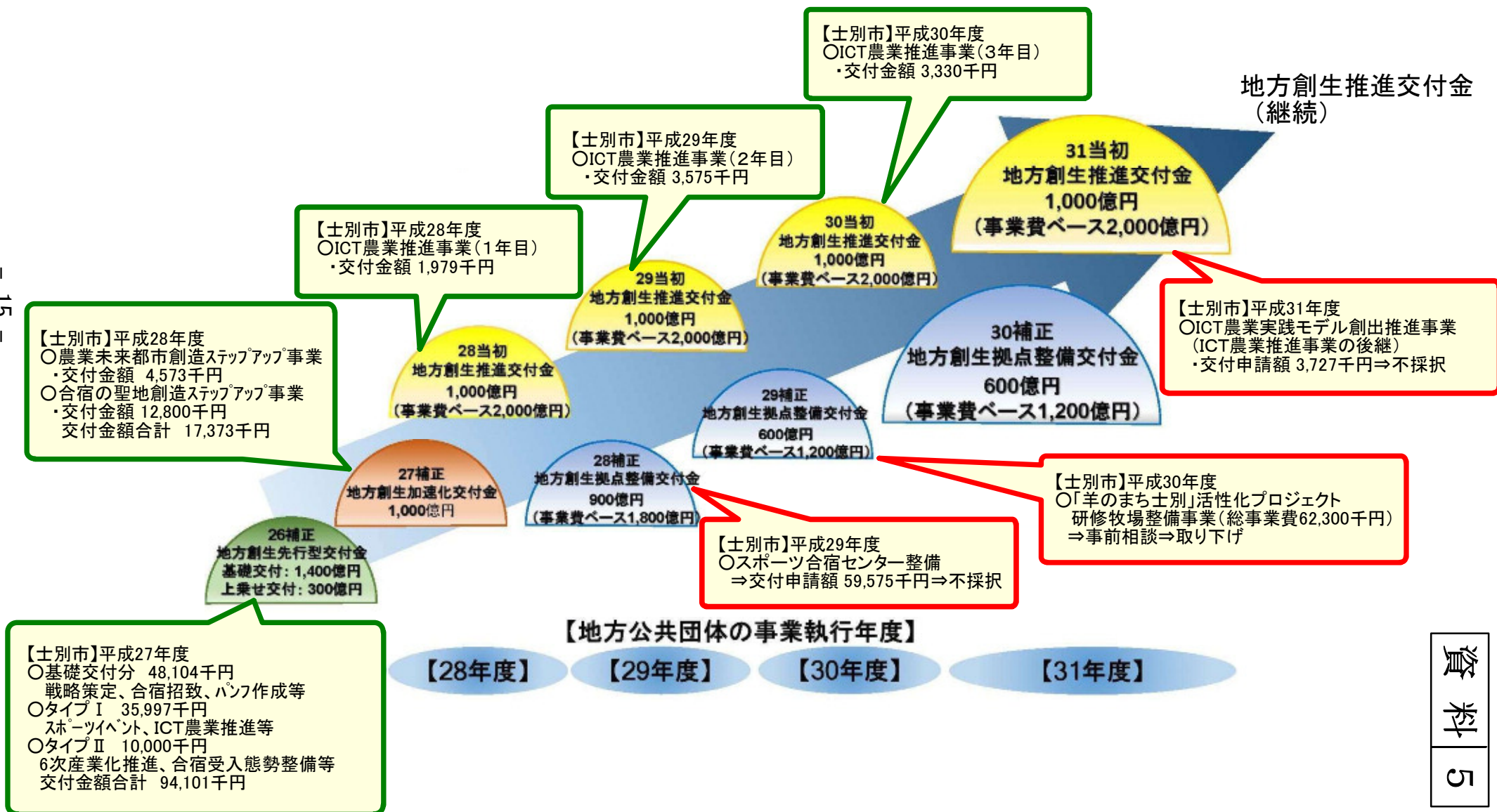
- ▶ 本市の最上位計画である「まちづくり総合計画」のなかで、「農業未来都市創造」「合宿の聖地創造」をめざすとともに、総合戦略との関係性を明記している。
- ▶ 市民を代表する総合計画検討市民委員会からは、「“農業”をまちの個性として加えるべき」「“農業”を市民が誇れるまちの顔にすべき」との提言を受け、6つ目のまちの個性として、新たに「未来型農業実践のまち」を位置づけ、農業未来都市創造の取り組みを推進することを明記。また、まちの個性を市内外へ積極的にPRをしていくことが必要との提言もいただいている。
- ▶ 若者の視点として、まちづくり総合計画の基礎資料となる中高生アンケートから、「合宿の里・土別」の推進に肯定的な意見が多く、また、活気あるまちにしていくためには、スポーツ活動の推進や観光の充実が必要という回答も多くあったところ。また、一般アンケートにおいても地域資源に対する市民の評価が高い項目として、スポーツ系、農業系が多い状況となっている。

以上により、引き続き「農業」「合宿」を柱にしつつ、「7つのK」（教育・子育て・健康・雇用・交流・観光・環境）と連携した戦略を構築する方向で戦略の策定を進める。

地方創生交付金の活用経過（H27～31）

- 自治体の自主的・主体的な取組で、先導的なものを支援
- KPIの設定とPDCAサイクルを組み込み、従来の「縦割り」事業を超えた取組を支援

- 15 -



第2期 士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要（案）

1 第1期 士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略における地方創生の現状と課題

(1) 第1期総合戦略の現状

① 目標人口の進捗状況

令和元(2019)年度の目標人口	平成 30(2018)年度実績	令和元(2019)年5月末
19,500人	18,788人	18,739人

総合戦略の取り組み4年間を終えた、5月末時点の人口は、18,739人となっており、目標人口に対して、761人少ない状況です。65歳以上の高齢者人口は、7,478人、総人口に占める割合（高齢化率）は39.9%となっており、急速な少子高齢化の進行や転出者の増加などによる影響が大きく人口の減少が進んでいる状況です。

② 本市の総合戦略で掲げる5つの数値目標（進捗状況）

項目	2019年度の目標値	2018年度実績
合計特殊出生率	1.5	1.27（参考：北海道）
有効求人倍率	1.2倍	1.63倍
高校卒業者地元就職率	50%	46.1%
健康な高齢者率（高齢者のうち介護認定を受けていない人の割合）	85%	81.8%
交流人口	456,700人	334,312人

- ・現段階で「有効求人倍率」以外の4つの数値目標は、達成が難しい状況にあります。
 - ・「合計特殊出生率」は、全道的な出生率の低下の影響もあり、本市においても目標値より低い状況にあると推測されます。（本市の合計特殊出生率は、令和2年3月公表予定）
 - ・「健康な高齢者率」は、高齢化の進行による影響もあり目標値より低い状況にあります。
 - ・「高校卒業者地元就職率」は、高校生の都市部への就職や進学などが影響し、目標値よりも低い状況にあります。
 - ・「交流人口」は、合宿者は概ね目標数値を達成していますが、観光イベントへの参加者の減少や天候など外的要因も影響し、目標値よりも少ない状況にあります。
- ※「健康な高齢者率」の基礎数値である介護認定率は、後期高齢者の割合が高い市町村は高くなる傾向があり、後期高齢者数の割合などを勘案し、一定の基準で比較できる「調整済み認定率」では、道内の市で3番目に低い状況であり、サフォークジムなどの介護予防の取り組みによる効果があったものと推測されます。

(2) 第2期戦略策定に向けた課題

- ◎ 若者の地元定住、移住しやすい受入態勢
- ◎ 新たな雇用の創出と新規就労者の確保
- ◎ 基幹産業である農業担い手の確保
- ◎ 観光PRや「まちの個性」など情報発信
- ◎ まちなかの賑い創出と交流人口の拡大
- ◎ 各地区で住み続けられる交通機能等の拡大など

2 第2期 士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略の方向性

「第2期総合戦略」は、「まちづくり総合計画」を上位計画とし、「第1期総合戦略」で掲げた「農業未来都市創造」「合宿の聖地創造」に加え、「移住・定住」や「交流人口の拡大」、「広域観光」の推進をはじめ、コンパクトで機能的なまちづくりをめざします。

新たな重点プロジェクトとして、(仮称)「まちの未来創造」を掲げ、「農業」「合宿」との連携を強化するとともに、「7つのK」への波及を図ります。また、急速な人口減少を抑制していくため、新たに「関係人口」の創出や拡大をめざします。

(1) 総合戦略の計画期間

まちづくり総合計画の周期を勘案し、第2期総合戦略の期間を

令和2(2020)年度～令和8(2026)年度の7年間とします。

まちづくり総合計画の最終年度の翌年度に総合戦略を策定することで、総合計画を十分に考慮した戦略とします。以降は、総合計画策定周期に合わせ8年間の戦略期間サイクルとします。なお、国から新たな方針が示され、大きな影響がある場合は、総合戦略の改訂をもって対応します。

(2) 人口ビジョン

本年6月に閣議決定された「まち・ひと・しごと創生基本方針2019」において、国は、人口ビジョンの大きな変更はしないと示しています。国のビジョンを勘案するとともに、まちづくり総合計画との連動性を考慮し、現戦略の目標人口を引き続きめざします。なお、人口ビジョンは、2060年までの長期ビジョンとなっています。

(3) 3つの重点プロジェクトの基本施策(案)

◎農業未来都市創造

現行	見直し(案)
<ul style="list-style-type: none"> ① やさしい農業農村づくり ② おいしい農業農村づくり ③ がんばる農業農村づくり 	<p>「持続可能な農業未来創造」</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 持続可能な生産基盤の確立 ② 多様で安定的な経営体の育成 ③ サフォーク羊の供給体制の充実 ④ 農畜産物のブランド化 ⑤ 担い手の確保 ⑥ スマート農業の推進

◎合宿の聖地創造

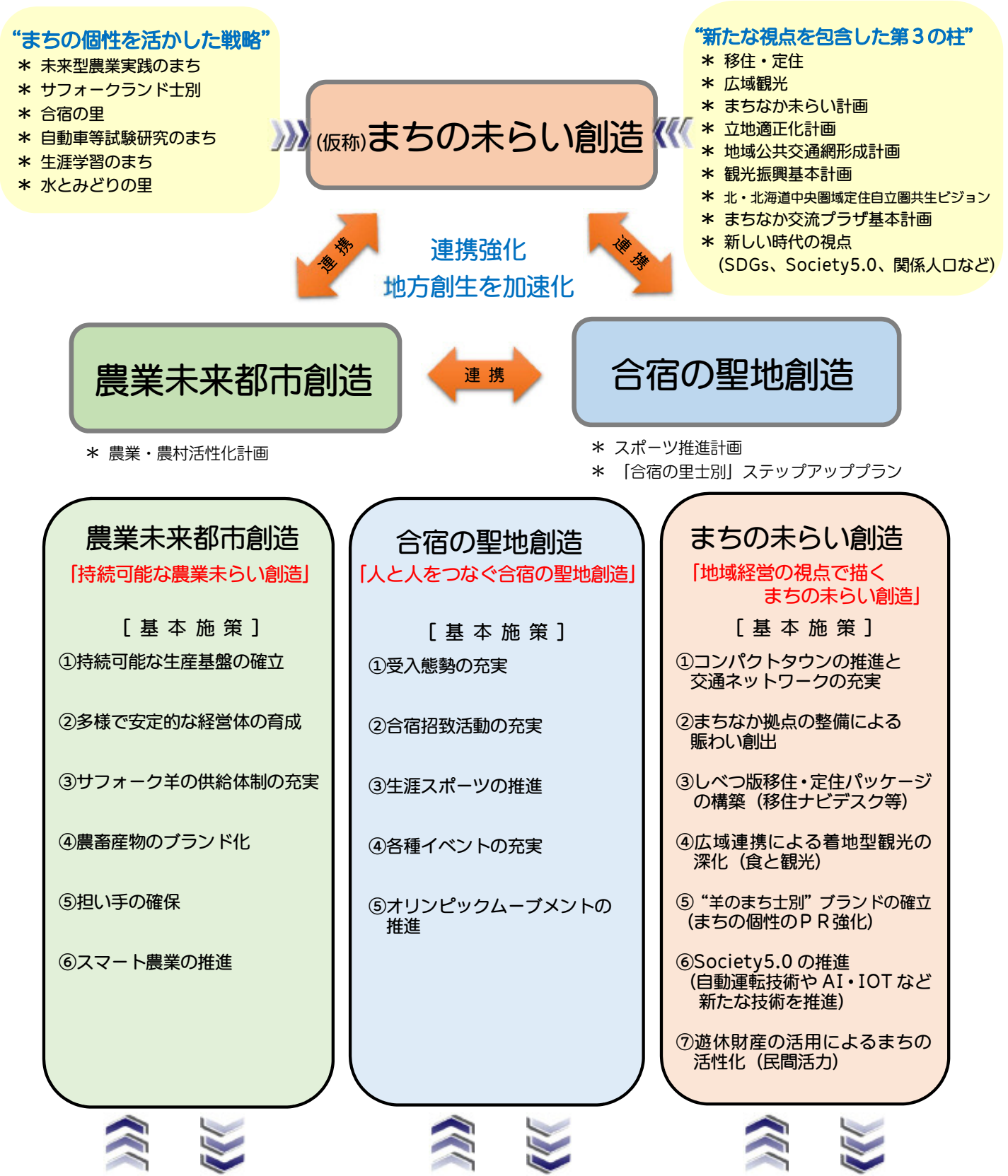
現行	見直し(案)
<ul style="list-style-type: none"> ① やさしい合宿地づくり ② おいしい合宿地づくり ③ がんばる合宿地づくり 	<p>「人と人をつなぐ合宿の聖地創造」</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 受入態勢の充実 ② 合宿招致活動の充実 ③ 生涯スポーツの推進 ④ 各種イベントの充実 ⑤ オリンピックムーブメントの推進

◎まちの未来創造(新たな重点プロジェクト)

<p>「地域経営の視点で描くまちの未来創造」</p> <ul style="list-style-type: none"> ① コンパクトタウンの推進と交通ネットワークの充実 ② まちなか拠点の整備による賑い創出 ③ しべつ版移住・定住パッケージの構築(移住ナビデスク等) ④ 広域連携による着地型観光の深化(食と観光) ⑤ “羊のまち士別”ブランドの確立(まちの個性のPR強化) ⑥ Society5.0の推進(自動運転技術やAI・IOTなど新たな技術の推進) ⑦ 遊休財産の活用によるまちの活性化(民間活力)

第2期 士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト概略図 (案)

計画期間：令和 2(2020)年度～令和 8(2026)年度



[7つのK]へ波及・政策間連携の強化・SDGsの視点を関連づけ

教育	子育て	健康	雇用	交流	観光	環境
----	-----	----	----	----	----	----

各種策定会議スケジュール

年 月	地方創生庁内 プロジェクト会議 (庁内会議)	まち・ひと・しごと 創生総合戦略 推進本部会議 (庁内会議)	まち・ひと・しごと 創生総合戦略 有識者会議 (外部有識者会議)	備 考 (議会等)	
H31 4月	・庁内プロジェクト設置 ・戦略レビューで次期戦略の方向性確認				
R1	5月	5月下旬～随時開催 ・策定スケジュール ・第1回戦略会議 ・人口ビジョン			
	6月	・現戦略の検証 ・次期重点プロジェクト ・推進交付金活用検証 ・次期戦略の概要(案)	【第1、2回目】 7月1日、7月16日 ・現戦略の検証 ・人口ビジョン ・第2期戦略の概要(案)	【6月21日 国】 ・基本方針閣議決定	
	7月	7月上旬～随時開催 ・戦略策定作業 ・国基本方針との整合			
	8月		【第1回目】 7月29日 ・委員委嘱 ・現戦略の検証 ・人口ビジョン ・第2期戦略の概要(案)		
	9月	9月下旬～随時開催 ・第2回戦略会議準備 ・人口ビジョン(基礎資料の更新)		【9月 議会へ報告】 ・第2期戦略の概要(案)	
	10月	・現戦略の検証 ・第2期戦略(素案) ・数値目標、KPI ・個別戦略(事業)			
	11月		【第3回目】11月上旬 ・現戦略の検証 ・人口ビジョン ・第2期戦略(素案) ・数値目標、KPI ・個別戦略(事業)		
	12月	11月下旬～随時開催 ・各会議からの意見に基づく修正作業 ・第3回戦略会議準備		【第2回目】11月中旬 ・現戦略の検証 ・人口ビジョン ・第2期戦略(素案) ・数値目標、KPI ・個別戦略(事業)	【12月 議会へ報告】 ・第2期戦略(素案) ・数値目標、KPI ・個別戦略(事業)
	1月		【第4回目】1月中旬 ・第2期戦略(案) ・国の戦略との整合		【12月 国】 ・第2期戦略閣議決定
	2月	2月上旬～随時開催 ・各会議からの意見に基づく修正作業 ・第4回戦略会議準備		【第3回目】1月下旬 ・第2期戦略(案) ・国、道戦略との整合	
R2	3月	3月上旬～随時開催 ・戦略策定作業 (最終校正)	【第5回目】2月下旬 ・第2期戦略(案) ・修正案 【第6回目】3月中旬 ・第2期戦略策定	【第4回目】3月上旬 ・第2期戦略(案) 提言を踏まえた戦略の確認	【3月 議会へ報告】 ・第2期総合戦略(案)
	4月	第2期 士別市・まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づく取り組みの展開			